

第1回 沼田市中小企業・小規模企業振興会議 会議概要

1 日 時 令和5年6月23日（金）午前10時～11時10分

2 場 所 テラス沼田5階 第2委員会室

3 出席者 須田恭弘委員、中林寿緒委員、平原将吉委員、小菅伸一委員、宇敷喜与次委員、柳澤一貴委員、橋本浩二委員、相京貴志委員、高橋昌弘委員、山口正委員、田中栄一委員、井上敏夫委員
(事務局：産業振興課長、産業振興係長、商工振興係長、企業誘致推進室長)

4 内 容

【1 開会】

【2 委嘱状交付】

【3 市長あいさつ】

中小企業・小規模企業振興会議については、令和4年に施行した中小企業・小規模企業振興基本条例に基づいて設置をしており、企業や関係機関、皆様のそれぞれの役割や取組を共有し、意見交換を行っていただくことで、効果的な振興施策を推進していくことを目的としている。地域経済や雇用を支えていただいている中小企業・小規模企業の振興なくして沼田の振興はないと考えているので、この会議には、大いに期待をしている。

【4 自己紹介】

－名簿の順番に委員及び事務局自己紹介－

【5 会長の互選及び職務代理の指名について】

－須田恭弘委員が互選により会長に決定－

－須田会長からの指名により橋本浩二委員が職務代理に決定－

【6 議事】

(1) 沼田市中小企業・小規模企業振興基本条例について

－資料1について事務局説明－

(2) 沼田市中小企業・小規模企業振興会議について

－資料2について事務局説明－

(3) 沼田市の現状について

－資料3について事務局説明－

(4) 沼田市の中小企業・小規模企業振興施策について

(5) 意見交換

- 生活していく上で道路と水路は大変重要だと思う。産業にも必要なものだと思うので整備をお願いしたい。また地域の高校生がどのくらい就職を希望しているのか伺いたい。
- 自校の現在の就職状況は平均すると半分程度で半分は進学を希望している。就職したい子のほとんどが地元を希望していて就職率はほぼ100%である。
- 令和5年3月末に卒業した生徒のうちハローワークが把握している数字は管内の全部の高校で107名が就職している。20年前に比べて就職をする生徒の数は減っているが、生徒そのものの数が減っているのが現状である。就職をしたい生徒については就職ができるまでハローワークでフォローアップをすることになっているので、ハローワークが把握している数値は100%となっている。
- 異業種、他業種が意見交換することによって刺激があり、今までにない価値観が生まれる。尾瀬高校で、高校1年生向けにキャリア教育の一環として就職感、勤労観のグループワークを行った。就職に至った経緯や仕事をしていてやりがいのあることなどの話をしたが、高校生自身も将来のキャリアのことを考えていて、初めての取り組みとしては地域で働いている姿を地元の高校生に生で伝えられたのはよかった。高校生に対してアプローチしていくことは就職にも繋がるので今後もいろいろな可能性を考えて取り組んで行けたらと思う。
- 企業の社長さんと会う中で話を聞くのは人手がないということ。雇用をどうするかということがこれから大事だと思う。企業誘致でこれから企業を連れて来るにしても、その企業で働く人がいないと成立しない。そういうところに重点を置きながら振興することも大事だと思う。
- 地域内経済循環、まずは地域の中でお金が回る事が一番いいのであって、その中でtengooは市の中でしか使えないお金なのでモデル的なもの。外に出て行かないのも必要だが外から持って来ることも大事だと思うので、コロナが明けてインバウンド的な推進も考えていったほうがいい。
- 平成26年に小規模企業振興基本法が改正をされ、国も小規模企業者への対策に力を入れてきている。コロナ禍で観光事業者が激減、特に老神温泉とか宿泊業者は打撃を受け、この時期になって廃業する事業者が増えている。コロナで頑張ってきたがこれ以上続けられないという廃業が増えている。中小企業を守って行かないと人口減少にも歯止めがかからない。
- 金融機関として地元の中小企業、小規模企業が元気になれば銀行としても役割を果たせるのではないと思う。お客様応援活動というものを推進していて、お客様の業績が向上するようにビジネスマッチングをしたり、販路拡大のお手伝いをしている。販路拡大のためにビジネス交流会等を開催しているが出展や商談には費用がかかるので、各社に補助していただければ助かるのではないと思う。
- 高校生の就職の話があったが、当行でも毎年高校生の採用をしている。就職後に母校に行って話す機会も設けてもらっているので地元での就職を応援したい。
- 沼田市としては観光が目玉で、観光客を呼び入れたほうが街も活性化するし、市の財政も豊かになるのではないと思う。観光バスで来た方が再度来ていただける工夫をして

いただければと思う。

- 生徒の進路については、半分が就職、半分が進学という中で、進学した子は地元に戻ってきて就職をする子は少ないが地元にもいい企業がたくさんある。学校としては就業体験という形で1年生の時から多くの企業にお世話になっている。地元企業からお声掛けいただいてありがたく思っているので、少しでも地域に貢献、地域に残るそんな生徒を育てたい。
- 今の情報の入手は主にインターネットで、沼田市もホームページ等で公開されている。確実な施策の実施はもちろんだが、適切に情報公開していくことが市民の理解が得られることではないかと思う。
- 高校生のための企業ガイダンスについてはハローワークさんや諸団体と協力して行っているが、開催の時期を見直しながらもっと多くの高校生に参加していただけるようにしていきたい。
- 地域内経済循環という話があったが、電子地域通貨は間違いなく沼田市内で使われているので非常に効果的な施策ではないかと一生懸命取り組んでいる。
- 優良な企業を誘致するというのは、就職口ができ、高校生や地域外に進学した学生を呼び戻すための器にもなる。雇用する労働者の絶対数が足りていないと、優良な企業を連れてきてもその周辺の企業の従業員が取られてしまうという懸念も考えなくてはならない。横塚工場適地については移住の受け皿、人口減の傾斜を少しでも食い止める施策の柱となる場所である。
- 観光はコロナで一旦冷え込んだが、やや持ち直しの傾向である。沼田の重要な部分になっている観光農園、果樹園が4月の降霜で大打撃を追っているが、いろいろな果樹を作っているので力を入れていきたい。
- この秋に市役所跡地にルートインが開業する。大勢が宿泊できることになるので、大きな会議、イベントや大会も沼田市で開催される可能性も出てくるので、経済活性化につなげたいところである。
- 人口減少の話があったが、年少人口、老年人口も減ってくる。人口が減るので学校の統合問題等いろいろなことがこれから激変し、5年、10年後、経済の環境以上に自分たちの生活が変わってくる。学校の統合作でみなかみ町が激変しているが、沼田市もそうならざるを得ない時期が来る気がする。
- 雇用の関係では、今は65歳までは企業は努力義務で働かせているが、65歳過ぎても地元の細かいことをするような仕事があれば良いと感じる。
- どこの市でもあることだが、空き家対策をどうするかということ。補助金もあるが実際にどう携わってよいかわからないので、話合いの中で勉強して携わって行きたいと思う。
- 街が賑やかなところは人口も増えて職場も増えている。はっきりしない街は人口が減っている。家族従業員で事業をやっているその家族が勤め人になってしまうと、店そのものが繁栄していくことは考えられない。商工会議所や商工会の指導もあるが、どれだけの人が実際に話を聞いているかという話になる。
- 今は車社会だからほとんどの人が郊外へ行ってしまふ。若い人でなくても年寄りも広い駐車場がある郊外へ行ってしまふ。街の振興という業者の方がそれぞれ伸びていく努力をしなくてはならないだろうが、住民と業者の関係がよい関係になっていかなければならない。

- 振興会議や制度融資の問題とか、商工会議所や商工会のみなさんに指導をお願いすることが多くなる。この会議も住民と企業の方との接点をどこに持って行くかと言うのも考えていく必要があるのではないかと思う。
- 利根沼田地区はハローワークは1箇所のため、沼田市と利根郡をすべて統合した数値となるが、利根沼田の状況をお伝えしたい。現下の雇用情勢について、公表されている直近の数値は4月末の数値で、求人倍率が1.35、仕事を選ばなければ、理論上は全部マッチングするといった数値になっている。去年の4月、1.59だったがコロナの回復があって徐々に上がっていきピークは12月で1.85まで上がった。そこから今下がってきているが下がってきている理由は調べているが正直なところわからない。ただコロナ禍からの持ち直しの動きが見られたというのは、確かに12月までは数字上は出ている。年明け以降、群馬全体で見ると基幹産業は製造業になっているので、原材料費の高騰の影響がたぶんあったのであろうというところから、現状は持ち直しの動きに足踏みが見られるという表現にとどめている。人手不足だと言われているが、数字だけ見ると人手不足感はなくなったのが現状である。
- 高校生の話が出ているが、ハローワークは市役所と雇用対策協定を締結している。利根沼田の子が市外へ進学をしてもいずれ戻ってきて利根沼田で働いてほしいわけである。そのために毎年1月に高校生向けのガイダンスをさせていただいている。ところが進学校の生徒さんはすぐに就職は関係ないのでなかなか出てくれない。利根沼田は良い企業がたくさんあるので、大学を卒業して利根沼田に戻ってきて働いている人も結構いる。利根沼田の良さは自然がこれだけあって、生まれ育ったところにやっぱり戻ってきたいと言ってもらえるように私たちに何かできることがないかと日頃から考えていくべきかと考えている。
- 私の会社は離職がほとんど無く高齢の人まで働いている。年配の人はとても大事である。国でも市でも若い人には手厚い補助をしているが、高齢者にはあまり良い環境ではない。高齢者は有資格者だからいろいろな災害にも強いし地域のことに熟知している。そういう人がすごく必要で大事であり、国とか市でも年寄りが働きやすい環境を作るための補助金があったりするとありがたい。今注目を浴びているのは若い人、高校生はもちろん大切だが、高齢者にも目を向けた方が雇用は充実するのではないかなと思う。

(6) その他

—事務局から事務連絡—

- ・次回会議は10月末開催予定で調整

【7 閉会】